

# 令和3年度 第1回 佐倉市立美術館運営協議会

## 議事録

日 時：令和3年10月1日～11月10日（書面による開催）

場 所：佐倉市立美術館

出席者：以下のとおり

（委 員 10名）

大久保委員、齊藤委員、田中委員、豊田委員、長澤委員、  
樋田委員（会長）、広本委員、真木委員、安本委員、吉村委員

### 会議次第

1. 会長と副会長の選任について
2. 報告事項
  - （1）令和3年度人事異動について
  - （2）令和2年度事業報告について
3. 審議事項
  - （1）令和3年度事業計画について
  - （2）令和4～6年度の事業計画等について

# 令和3年度第1回佐倉市立美術館運営協議会 運営協議会委員の意見、質問と美術館の回答

## 1. 会長と副会長の選任について（委員名簿は「会議資料」3ページ）

- ・事務局案で良い。（9票）
- ・事務局案とは違う意見がある。（1票）

### 意見（1件）

#### 意見① 委員

副会長には地元佐倉市在住の方になっていただけたらいかがでしょうか。

齊藤さんはつくば市在住で佐倉出身ですが、現在佐倉で活動されているかたが適任ではないでしょうか。以前横浜美術館の運営委員だったのですが、運営委員会には事務方の職員も出席していました。またボランティアの方も出席されていたと思います。水戸芸術館、静岡県美もそうだったような気がします。年3回の委員会のうち1回を学芸以外の会議とし、他館の事務職あるいは経験者に参加してもらえれば有益かなと思います。皆様のご意見をうかがってみてはいかがでしょうか。既に実施されていれば余計なお節介申し訳ありません。現行の美術館規定に従うと不可能ならば経験豊富な委員のお知恵拝借しましょう。私は佐倉に20年住んでいて大崎台5丁目の町会長もしました。寺崎小学校の委員も引き受け、特別授業や卒業式など参加しました。この時期になると火の用心の夜回りをしたことが思い出されます。

地震が頻発していますが美術館は避難場所として機能するのでしょうか？まあ市役所の仕事ではありますが、美術館の職員も関心を持っていただきたいと思います。

以前お願いしたようにも思いますが、会議資料はあらかじめメールか郵送して各委員に送り、会議では質疑応答と問題提起および検討とすれば委員会が有効に機能すると思います。

### 美術館より

上記の投票結果を受けまして、会長を樋田豊次郎委員、副会長を齊藤泰嘉委員にお願いしたいと存じます。お手数をおかけして申し訳ございませんが、よろしくお願い申し上げます。

## 委員の意見について

- ・「事務方の職員の参加」について、現在、佐倉市は「スタッフ制」を導入しており、学芸員と事務方の分類をしていない状況であり、学芸員採用の職員も事務を担っております。また、運営協議会は年2回の開催となっております。
- ・「避難所」については現在、佐倉市危機管理課との協議において対応させていただいております。美術館の学芸系職員も市内の避難所職員として配備、出動しております。配置職員の人数、施設の特性をふまえながら、検討していく必要があると考えております。
- ・「会議資料」については、個人情報が含まれていないものに限り、検討させていただきます。

## 2. 報告事項

### (1) 令和3年度人事異動について（「会議資料」4ページ）

#### 意見（4件）

意見①～③ 了解しました。（3件）

意見④ 委員

差し支えなければ、学芸員の専門分野、論文、学歴、職歴をお知らせいただきたい。

#### 美術館より

美術館の規模、配置職員数から、各職員の専門性を確立するのが困難な状況です。各学芸系職員に大まかには得意とする分野はありますが、当美術館が扱う日本の近・現代美術を全ての学芸系職員が担当することになっております。

各学芸員の専門分野は下記の通りです。

- ・猪股佳二（館長（学芸員）） 専門分野 日本考古学
- ・本橋 浩介（副主幹（学芸員）） 専門分野 近・現代美術  
論文「佐倉と近代洋風建築に関する4つの随想」

（「矢部又吉と佐倉の近代建築」図録 pp.85-88／2018年当館発行）

・木邨かおり（主査（学芸員）） 専門分野 近・現代美術

論文「洋画家・浅井忠について」（「佐倉学 浅井忠展」図録 pp.72-75/2014年当館発行）

・黒川 公二（学芸員） 専門分野 近・現代美術

論文「カオスモス6について」（「カオスモス6」図録 pp.8-9/2021年当館発行）

・西川可奈子（主事（学芸員）） 専門分野 近・現代美術

論文「佐藤志津—資料に見るその生涯—」

（「女子美術大学と佐藤志津展」図録 pp.83-87/2018年当館発行）

尚、人事課で確認したところ、学歴・職歴については個人情報保護法の個人情報にあたるため、回答は控えさせていただきます。論文等につきましては、当館事業に関連する直近のものです。

## (2) 令和2年度事業報告について（「会議資料」4～5ページ）

### 意見（7件）

#### 意見① 副会長

##### (1) 「大正イマジュリィの世界」

大変興味深い内容の展示であり、森谷延雄はじめ佐倉ゆかりの作家たちを掘り起こした有意義な展覧会であったと思う。ただ、「イマジュリィ」という言葉はあまり一般的ではないので、副題に回した方が良かったのではないかと。たとえば、「妖艶なる絵姿—大正イマジュリィの世界」のように。

##### (2) 「久保浩展」

存在感ある作品が並び、彫刻の迫力を十分に味わうことができた。日展彫刻部門の山本真輔理事も来場され、私もお仲間に入れていただき、持参した東京府美術館建築装飾のブロンズ彫刻《ライオン像》に対し、久保先生と山本先生から専門的ご意見を頂戴出来た。現役作家の個展はご本人と直接にお話しできるのが良い点だとあらためて感じた。

### (3) 収蔵作品展3「ちばのいろ」

「日本遺産」という観点から美術品を紹介する視点が興味深かった。こうした歴史博物館系の視点を美術館ももっと取り入れて良いと思う。展示されていた森山香浦は、1929年にパリのジュ・ド・ポームで開かれた「巴里日本美術展覧会」に香取秀真、津田信夫らとともに出品し、「梨花小禽」という絵を出して売約となっている（黒田鵬心『巴里の思出』1956年、15頁）。

今後、さらに調査すれば、森山香浦関連の展覧会を開催することもできるのではないかとと思われる。また、日仏芸術社エルマン・デルスニスと佐倉の美術の関連も明らかにできるのではないかと。

### (4) 教育普及

・第38回新春佐倉美術展が中止になったのが残念である。令和3年度は開催とのことだが、今後は、美術館のホームページなどオンラインで展示作品を紹介するなどの対応策を考えても良いのではないかと。

・ミテ\*ハナさんの活動について、一つの項目（ボランティア活動？）を立てての説明があっても良いのではないかと？美術館の予算獲得にもつながるのではないかと。

### 意見② 委員

コロナ禍の最中、感染予防に配慮しながら、運営できたと思います。

### 意見③ 委員

コロナ禍での開館に御苦労された事と思います。その中で、企画展の歳出・歳入費を比較すると、歳出費の約13.6%が歳入となっており、令和2年度の状況下の中で、入館者及び図録等の販売で、館の職員の方の大きな努力があったと感じました。

### 意見④ 委員

コロナ禍の大変な中、本当にご苦労様でした。

### 意見⑤ 会長

「カオスモス6」は、研究成果にもとづいたよい企画だった。現代の若手作家の精神にひそむ「自然」に対する新しい見方が表出されていた。

### 意見⑥ 委員

各展覧会の集客数予定と実数、予算など、一覧できると良い。

## 美術館より

ご指摘ありがとうございます。検討させていただきます。

### 意見⑦ 委員

今回の報告事項を拝読致しますと、本当にコロナに翻弄された年だったのだと感じました。大正イマジュリィの世界展も本来なら最初のオリンピックの時期で、外国の方々も興味のありそうな内容でしたのに残念でした。

## 3. 審議事項

### (1) 令和3年度事業計画について（「会議資料」6～7ページ）

#### 意見（6件）

##### 意見① 副会長

「フランソワ・ポンポン展」

日本では知名度が高いとは言えない彫刻家なのでわかりやすい副題を付けたほうが集客につながるのではないかと。

## 美術館より

展覧会名は「フランソワ・ポンポンー動物を愛した彫刻家展」にさせていただきました。

##### 意見② 委員

結構です。

##### 意見③ 委員

コロナ禍・変異株禍の為、予算減額（企画展3→2本）、さらに市立図書館建設工事により駐車場の利便性（二年前との比較）の点から来場者の激減と....苦難の二年目だったと思います。それでも「美術館」が市民を初め多くの方々の「心のオアシス」としての役目（役割）を果たしていたことは事実で、心から感謝しています。

##### 意見④ 会長

「上瀧勝治展」も、「ポンポン展」も、庭園美術館でも開催したいぐらいの好企画である。「ミテ・ハナソウ」は、マンネリにならないよう、もうひと工夫してほしい。

## 意見⑤ 委員

新人作家は略歴、作品例、出品予定作品などお知らせいただきたい。

### 美術館より

「カオスモス7」については現在、情報を収集している段階につき、まとめ次第ご報告させていただきます。

## 意見⑥ 委員

予算の関係でしかたありませんが、「セラミックス・ジャパン戦後編展」。どんな展覧会だったのか、見てみたかったです。

### 質問（1件）

#### 質問① 委員

企画展予定3本のうち1本が予算減額により2本となったとの事ですが、予算減額の理由はどのような理由でしょうか？市財政の全体的なマイナスシーリングで減額となったのか、それとも、コロナ禍で開館日数の減少が予想されたため、企画展1本をなくしたのか？お教え下さい。

### 美術館の回答

開館日数は減らしておりません。当館はコロナ禍にあっても「開館、展示、学校教育への協力」を継続するために対策を講じています。

企画展が2本となった理由は、令和元年度の水害とコロナ禍による全庁的な予算の引き締めが大きいのですが、令和元年台風15号の被害で破損したエントランスホール（千葉県指定文化財旧川崎銀行佐倉支店）の銅板葺き屋根の修繕を優先したことも理由のひとつです。

## (2) 令和4年度～令和6年度の展覧会計画について（「会議資料」8ページ）

### 意見（6件）

#### 意見① 副会長

令和6年度「香取秀真の眼」

一般に作家が影響を受けた芸術作品の探求は大変興味深い。益子の濱田庄司記念益子参考館には濱田が収集した世界の工芸品が展示されていて濱田の作品と比較できるのが楽しい。浜田は、自分が「負

けた」と思った作品を収集したという。「香取秀真の眼」もそうした楽しい比較のできる展示内容にしてほしい。東京国立博物館の沖松健次郎研究員に先日お会いしたときに「ぶんかつ」というシステムが東博にあることを知った。これは文化財活用センターの活動のことで、地域の美術館博物館にその地域ゆかりの東博所蔵品を貸し出すという制度（輸送費は東博負担）だという。たとえば古河歴史博物館に《鷹見泉石像》をこの制度で貸し出したという。「香取秀真の眼」展でもこの方式を活用すれば予算の節約ができるのではないか？

#### ■補足資料

美術館への来場者を増やすために従来の美術館企画展の枠を取り払い、地域密着型歴史系博物館・記念館的視点を導入してもよいのではないか？例えば、「長嶋茂雄と佐倉一昭和イマジユリのヒーロー」のような感じで。

#### 意見② 委員

地域に根ざした企画があり、同時に意欲的な企画もあって大変結構です。

#### 意見③ 委員

特に異論なし

#### 意見④ 会長

「安西水丸展」も、「清原啓子展」も県ゆかりの作家として、ぜひしっかりと基礎データを掘り起こしてほしい。

#### 意見⑤ 委員

新人作家は略歴、作品例、出品予定作品などお知らせいただきたい。

#### 美術館より

「新進作家個展（仮）」については、候補作家（2名）の年譜等を別紙のとおりご報告いたします。

#### 意見⑥ 委員

令和5（2023）年度の絵本展（仮）について

佐倉図書館等新町活性化複合施設の開館に合わせ、子どもたちも楽しめる絵本を主体とした展覧会。大変楽しみにしております。どのような展覧会になるのか、短大の学生もボランティアでお手伝いさせていただけたらありがたいです。

## 質問（2件）

### 質問① 委員

審議事項（1）に関連し、企画展が令和3年度3本から2本となった事に伴い、令和4～6年度は3本を予定していますが、市財政での予算減額が令和4年度以降も続くのであれば、3本の企画展を実施するのが困難と考える。その際3本のうち2本となった場合、残す企画展は選定済でしょうか？

（要求は3本でいいと思います。財源不足で市財政当局が1本切るなら財政部門と協議し、美術館に有利な条件を付け、協議に臨まれる事を要望します）

### 質問② 委員

年に3本の企画展を考えられている。令和4年度～6年度の計画ですが、6ページのように予算が減額されたら、どの展覧会を外すとか、すでにお考えなのでしょうか？

## 美術館の回答

展覧会につきましては、収蔵作品展は経常予算で、企画展は臨時予算で開催しています。臨時予算は、実施計画に計上し、承認されなければ予算要求することができません。

令和4～6年度の企画展計画は、今後の臨時予算の要求を左右する「佐倉市総合計画・前期基本計画に係る実施計画」に計上し、承認されています。

令和4年度予算要求では、トラックヤードの排気装置の改修も計上しており、企画展3本分の内示を得ることができない場合は、「小村雪岱展」を延期する予定です。

※令和4年度～令和6年度の展覧会計画

「新進作家個展（仮）」候補作家 資料

候補作家① 満田晴穂（みつた はるお）略年譜

- 1980 鳥取県に生れる。就学期を千葉県我孫子市で過ごす  
2002 東京藝術大学美術学部工芸科入学。  
授業の一環として実施された古美術研究旅行で自在置物師・冨木宗行と出会い、自在置物師を目指す  
2008 東京藝術大学美術研究科修士課程彫金研究室修了

■主な個展

- 2010 「自在」ラディウムーレントゲンヴェルケ（東京）  
「JIZAI」日本橋三越本店本館（東京／2012、2014、2016、2018、2020にも開催）  
2013 「JIZAI」ラディウムーレントゲンヴェルケ（東京／2015、2017、2021にも開催）  
2019 「JIZAI」大和日英基金ジャパンハウス（ロンドン、イギリス）

■主なグループ展

- 2013 「六本木クロッシング2013」森美術館（東京）  
「アート昆虫ワールド」高崎市タワー美術館（群馬）  
2016 「一未踏への具象一ざ・てわざ」日本橋三越本店本館（東京）  
「蜘蛛の糸」豊田市美術館（愛知）  
「今様」ハワイ大学ギャラリー、ホノルル美術館（アメリカ）  
「融合する工芸一旅に出たヤドカリのはなし」大阪高島屋（大阪）  
2017 「カオスモス5 一粒の砂に世界を見るように」佐倉市立美術館（千葉）  
「ニッポンの写実 そっくりの魔力」北海道立函館美術館（北海道）  
「驚異の超絶技巧！ー明治工芸から現代アートへー」三井記念美術館（東京）

■主な受賞歴

- 2006 東京藝術大学の成績優秀な工芸学生を対象とする「原田賞奨学基金」を受賞  
「全日本 金・銀創作展」において「開催委員会会長賞」受賞  
2007 「第2回藝大アートプラザ大賞」において「大賞」受賞  
2009 「第48回日本クラフト展」において入選  
2017 「平成28年度日本文化芸術奨学金」において「第8回創造する伝統賞」受賞

■その他

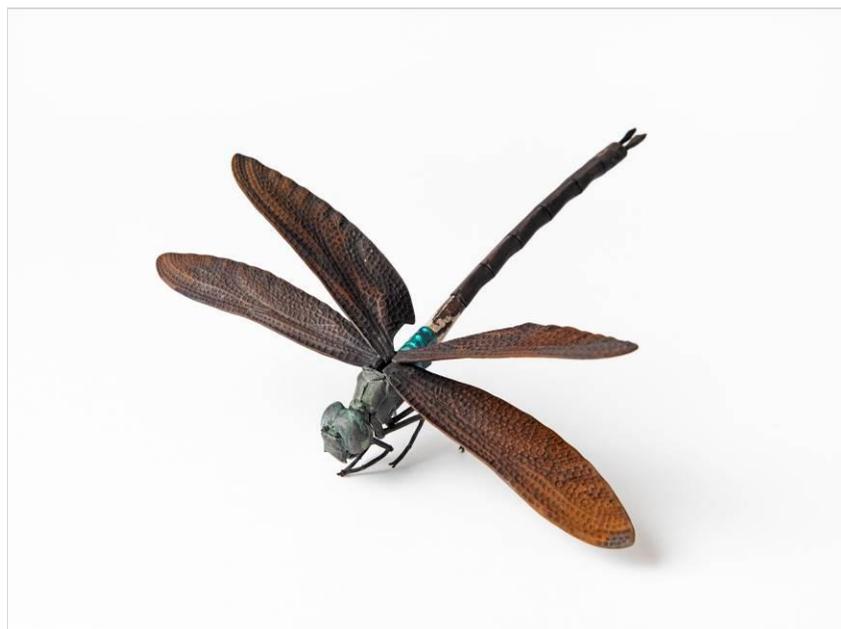
- 2020 テレビ番組「情熱大陸」で紹介（毎日放送）



①満田晴穂《自在深山鍬形(雄) (じざいみやまくわがた(おす))》

2015年 銅、真鍮、青銅 L 90×W 65×H 30 mm

満田は東京藝術大学工芸科に在学中、自在置物師・富木宗行と出会い、その道を目指すようになります。自在置物とは龍や蛇、昆虫等を鉄や銀等の金属を使って写実的につくるだけでなく、その動きを再現できるように関節等が動かせるようになっている置物のことです。それらは明治期の工芸技術の粋が集められたものでしたが、その技術は現代にごく少数受け継がれているのみであり、満田は唯一の技術伝承者となっています。上図の《自在深山鍬形(雄)》では、前翅と後翅が開くようになっています。



②満田晴穂《自在銀蜻蜒(じざいぎんやんま)》

2016年 銅、真鍮、青銅 L 110×W 80×H 30 mm



③満田晴穂《自在白扇潮招（じざいはくせんしおまねき）》

2016年 銅、真鍮、青銅 L 50×W 30×H 20 mm



④満田晴穂《自在油蟬（じざいあぶらぜみ）》

2017年 銅、真鍮、青銅 L 65×W 35×H 25 mm

## 候補作家② 村上早 (むらかみ さき) 略年譜

1992 群馬県高崎市に生れる

2016 武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程美術専攻版画コース修了

### ■主な個展

- 2016 「トーキョーワンダーウォール都庁2015 | 村上早」東京都庁第一本庁舎 (東京)  
「村上早展」コバヤシ画廊 (東京/2017, 2018, 2019, 2020, 2021 にも開催)  
「project N 66 村上早展」東京オペラシティ アートギャラリー (東京)
- 2017 「童跡」Mountain Art Foundation (北京、中国)
- 2019 「gone girl 村上早展」上田市立美術館 (長野)

### ■主なグループ展

- 2015 「シェル美術賞展2015」国立新美術館 (東京)  
「VOCA 展2016」上野の森美術館 (東京)
- 2017 「群馬青年ビエンナーレ2017」群馬県立近代美術館 (群馬)  
「群馬の美術2017」群馬県立近代美術館 (群馬)
- 2018 「放轻松—動漫謬想的秘密花園」銀川現代美術館 (銀川、中国)
- 2021 「カオスモス6 沈黙の春に」佐倉市立美術館 (千葉)

### ■主な受賞歴

- 2015 「FACE 2015 損保ジャパン日本興亜美術館賞」において「優秀賞」受賞  
「第6回山本鼎版画大賞展」において「大賞」受賞
- 2016 「アートアワードトーキョー丸の内2016」において「フランス大使館賞」受賞
- 2017 「群馬青年ビエンナーレ2017」において「優秀賞」受賞

### ■パブリックコレクション

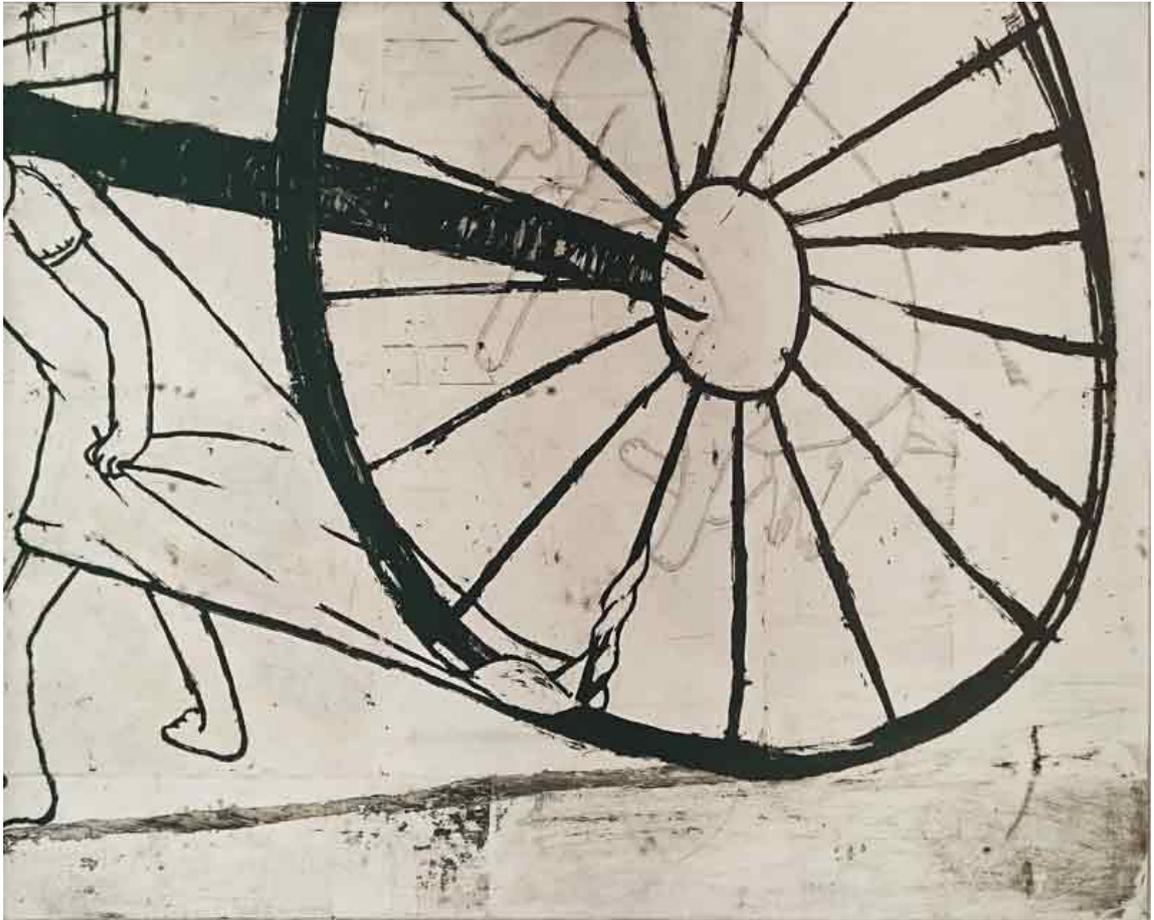
上田市立美術館、高橋龍太郎コレクション、東京国立近代美術館、町田市立国際版画美術館



①村上早《めぐらす》2015年 紙、銅版画 120×150cm

村上の銅版画は、その多くが幼年期の記憶を起点としたもので、複数の版によって構成された大画面にモノクロームを基調として描かれています。実家が動物病院を営む村上は幼い頃から、動物の生死とそれに関わる人間の姿を見つめてきたそうです。村上は、自分にとって版は「生き物」、腐蝕は「腐敗」、版上の傷（描線）は「人体と心の傷」、インクは「血」であり、それを紙という「ガーゼ」に刷りとる行為だと自作について説明しています。

数々の痛みを伴う体験から紡がれた物語は、作家の中で人間の本質を問うものへと深化していったように思われます。作家の実体験に基づく制作姿勢には真摯なものを感じられ、アイデア先行の現代美術とは一線を画するものです。まだ二十代ですが、昨年は東京国立近代美術館に作品4点が収蔵され、作家としての評価は近年更に高まっているように見受けられます。



②村上早《まわる》2015年 紙、銅版画 118×150cm



③村上早《かくす》2016年 紙、銅版画 118×150cm